

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	市立川西病院市民モニター会議(第4回)		
事務局(担当課)	総合政策部 病院改革推進課 (内線2216)		
開催日時	令和2年6月29日(月) 10時00分～		
開催場所	川西市役所 B01 会議室		
出席者	委員	加門会長・南野副会長・熊手委員・大村委員・森寺委員・高須賀委員	
	その他	指定管理者 市立川西病院清水事務部長 沖 事務部長補佐	
	事務局	作田理事・総合政策部病院改革推進課清原課長・藤本	
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	当会議の意見交換などの内容を公にすることにより、率直な意見の交換が不当に損なわれる恐れがあるため、傍聴を不可とする。		
会議次第	1. 開会 2. 議事 (1)市立川西病院に関する意見交換について (2)その他 3. 閉会		
会議結果	別紙会議経過のとおり(要旨)		

審議経過

1. 開会

2. 議事

(1) 市立川西病院に関する意見交換について

ア. 前回のモニター会議での意見・提案への対応について

(ア) 看護体制について

指定管理者： 看護職員数について、元年度4月は141名だったのが、今年度4月には150名に増員したが、7対1と4北病棟の再開には至っていない。元年度は年間通して、1日127名程度の入院患者の推移となっており、そのうち急性期は80名前後だった、これが100名を超えるくらいにならないと4北病棟の再開は現実的ではない。今後も、紹介や救急を通じて、患者数を増やしていく。耳鼻咽喉科に2名医師が入职し、4月から入院や手術も対応できる体制が整っている。緩和ケア病棟も1名医師が入职し、入院患者数も増えてきている。

委員： 7対1に戻すと言ってから、もう1年経っている。看護師からは7対1に戻して欲しいという声を聞いているが。

指定管理者： 患者数が減っている事もあり、単月では7対1の体制は整っている。施設基準の届出は、患者数が増加しても施設基準が満たせる看護師数を確保出来てから行うべきと考えている。

委員： 実際は体制が整っているから良いという考えでは無く、7対1はしっかりと目指すという認識でお願いします。

委員： 私が入院した病棟では、夜間に2名しか看護師がおらず、非常にバタバタしていた。その事を考えても、看護師の増員が必要と思う。

指定管理者： 患者数が増加してくれば、まず休床している4北病棟の再開を目指している。それに伴い必要になる看護師数を、しっかりと確保していかなければならないと考えている。

委員： 7対1に苦慮されていますが、他に8対1や9対1等はないのか。

指定管理者： 診療報酬制度では、7対1の次は10対1、その次は13対1になる。

委員： 私が入院していた時、看護補助者にベトナム人留学生がいらっしゃいましたが、コミュニケーションをとるのが難しいことがあった。

指定管理者： ベトナム人留学生については、現在は18名在籍しており、将来的には介護福祉士等を目指している学生が、アルバイトという形で勤務している。ベトナムから日本に来られる際、日本語学校で介護を行う上で支障のない程度には勉強をしているが、ご不便をおかけして申し訳ない。指導を行っていく。

委員： ベトナムの方などに、ポケットトーク(翻訳機)等を導入してはどうか。急を要する場合等に役に立つと思う。

(イ) 地域貢献について

指定管理者： 出前講座は年明けから4回実施した。

- ・ 1 / 14に17名参加
- ・ 1 / 18に38名参加
- ・ 2 / 17に14名参加(講師：認知症看護認定看護師)
- ・ 2 / 19に15名の参加。

地域の要請により、講座を実施した。

- ・ 2 / 7に25名参加(講師：内科医師)

病院主催で講座を実施した。

- ・ 2 / 20に26名の参加(講師：皮膚排泄ケア認定看護師)

今後は認定看護師等、地域に出向いてミニ講座等を行っていくことや、WEB講座を検討している。その他には、紹介患者獲得の為に、地域の開業医向けの広報誌も発行している。

委員： 出前講座やミニ講座以外にも、地域貢献はありませんか。

委員： 地域医療をしっかりと行う事が、一番の地域貢献に繋がると思う。その為には、アピールが少なすぎる。耳鼻咽喉科の医師が増えて入院出来るようになった事等を、もっと市民に伝える取り組みが大事だと思う。

委員： 出前講座等、一度の開催で20名前後にしか伝わらない、これだけでは効果が出にくいのではないか。

指定管理者： それらを補う為に、夏にアステホールで、全市的に市民医療講座を年に1回開催している。

委員： アステホールは何名程の参加だったのか。

指定管理者： 定員300名だったが、参加者100名程だった。次回は開催時期やテーマを工夫して参加者を増やしたいと考えている。

委員： 出前講座は北部地域が中心で、あまり中部や南部地域にはない。

指定管理者： 市の政策である出前講座だけでなく、病院のアピールに繋がる事業を考えていきたい。

イ. その他(市立川西病院の全般について)(資料2)

資料2「患者数」に沿って、指定管理者から説明

指定管理者： 市が運営していた平成30年度の1日あたりの入院患者数の年間平均が156名程だったが、指定管理者導入になった4月の1日あたりの入院患者数が、136人と減少した。また1月から3月にかけて本来は入院患者数が増えるところだが、暖冬の影響や一般内科、呼吸器内科の医師が3月末に退職の為、患者数を制限していた事もあり、例年になく落ち込んだ。外来も新型コロナウイルス流行による受診自粛の影響を受け、令和2年3月頃から患者数は落ち込んだが、5月以降は、耳鼻咽喉科や整形外科の手術増加に伴い、少しずつ患者数は増えてきている。

委員： 新型コロナウイルス流行時、電話での処方箋対応はしていたのか。

指定管理者： 再診の患者様については、5/31まで電話の申し込みでの処方箋発行も行った。

委員： 3月顕著に患者数が減っているのは、新型コロナウイルス流行によるものか。

指定管理者： 全てが新型コロナウイルス流行によるものとは考えておらず、医師の退職等も影響していると考えている。

委員： 発熱を有する患者の対応はどうしていたか。

指定管理者： ホームページでも掲載しているが、2つある玄関を1つ閉鎖し、正面玄関にサーモグラフィーを設置、またゾーン分けを行い、発熱者は専用の部屋で診察を行う等、感染対策を徹底している。

委員： 全般の話だが、残り2年程しか無いので病棟再開や7対1に固執し過ぎる必要はないのでは。

指定管理者： 民間による病院経営の観点からすると、人件費に対して収益が足りておらず厳しい経営状況である。増収の為に休床中の病棟再開を目指す、その為に紹介患者や救急患者を獲得し、医師1人あたりの患者数を増やす事が急務と考えている。

委員： 患者への医療の質が落ちない事が一番大事なので、数字も大事だけど内容の充実を忘れないで欲しい。

事務局： 新病院への移転についてお話すれば、現病院で7対1に戻しておかないと新病院で7対1に出来ないということがあります。また新病院移転時には医師の確保が必須ですが、現在厳しい経営状況の中で、小児等を含め医師の確保を頑張って貰っています。後は患者数を増やす努力が重要です。新病院にスムーズに移行するという面からも、指定管理者には引き続き頑張って貰わなければならない、と考えています。

委員： 病院自らアピールしていく事も大事、患者数を獲得しなければ7対1も病棟再開も難しいと思う。良い先生や良いスタッフがいる事を、しっかりと市民に伝えていかなければならない。

指定管理者： まず患者数獲得が大前提。アピールが足りてないと感じているので、ホームページをもっと工夫するなど、色々な方法を検討していく。法人をあげて、医師看護師の確保に努めていく。

まとめ： 医師を充実させて医療の質を向上し病院のPRをしっかり行い、健全な経営を目指して欲しい。

いただいたご意見、ご提案の中で、改善可能なものは速やかに改善に取

り組んでいただきたいと思います。今後も、いただいたご意見について改善が
できているかどうか確認をする。

3. 閉会